

筑紫野市市制施行 50周年記念誌



50th
ちくしのし
ANNIVERSARY

これまでも、これからも、このまちと。



筑紫野市

〒819-8686 福岡県筑紫野市石崎1-1-1 TEL 092-923-1111(代表) FAX 092-923-1134
<https://www.city.chikushino.fukuoka.jp/>

ご挨拶

令和4年4月1日、筑紫野市は市制施行50周年を迎えました。

この50年、筑紫野市と共に歩んできた市民の皆様、そして市政へのご協力をいただいていた全ての皆様に、心からのお礼を申し上げます。

昭和47年の市制施行当時、筑紫野市の人口は4万人。緑と太陽の都市をめざして産声を上げた筑紫野市は、恵まれた交通、豊かな歴史や自然を背景に、先人の知恵とたゆまぬ努力により、今日、10万6千余の人口を抱えるまでに発展してまいりました。

現在、筑紫野市では7つのコミュニティによるまちづくりを進めています。それぞれのコミュニティで、地域の特色を生かした魅力ある取り組み、課題を解決するための懸命な取り組みが行われています。50周年記念事業としても、コミュニティごとにさまざま

まな催しがなされ、まさに全市を挙げて、市民参加型のお祝いが展開されております。

先人に感謝し、共に称え、祝う。そのためのさまざまな事業を通じ、私たち一人ひとりが、筑紫野市を深く知り、あるいは新たな魅力に気づき、あらためて素晴らしさを実感する。このことがこれから先、50年、100年と続く筑紫野市の礎となることを確信しています。この大切な瞬間を、皆様と迎えることができました。

これまでも、これからも、このまちと。

筑紫野市は、新たな一歩を踏み出します。



筑紫野市長
藤田陽三

Contents

市民12人のメッセージ	3
筑紫野市の今	7
地域コミュニティ紹介	15
50周年記念事業	19
フォトコンテスト	21
筑紫野市の50年	25
筑紫野市基本データ	29

市民12人のメッセージ



愛の一声で
新しい仲間と

筑紫野市シニアクラブ連合会
会長 小川 豊さん

創

設から49年、現在6地区58クラブ約3000人が活動し、「健康、友愛、社会奉仕」を合言葉に、スポーツや文化活動を通じて健康維持や交流を図っています。3月の「おけいここと発表会」や11月の「シニアまつり」では、歌や踊りなど成果を発表する機会があるほか、スポーツの大会や囲碁・将棋大会なども行っています。バタンクやグラウンド・ゴルフなど定番の競技に加え、ボッチャや卓球バレーなど新たな競技にも挑戦しています。

また社会還元活動として、コイン基金を災害に遭った市町村に寄付してきましたが、最近はやり地元密着の基金をと、こども食堂への寄付を行うようになりました。「愛の一声 人から人へ」をキャッチワードに、これからも地域の見守りサポートを続けていきます。今よりももっと女性の参加者が増え、さらに元気で明るい活動の場となることを願っています。



創造力と
行動力をいかし
地域振興発展の
先駆者となる。

筑紫野市商工会青年部
部長 北岡 幸一さん

市内には「地元のために」と同じ思いを持つ団体がいくつもあり、協力し合って地域貢献ができればいいと思います。筑紫野市は温泉街の情緒ある風情を残しつつ、時代の流れに沿った変化の必要性を今、感じています。10年後、20年後と、子ども世代が好んで住み続けてくれる街であって欲しいですね。

青 年部には3つの委員会があり、活動の基本は地域活性化ですが、コロナ禍で思うような活動ができていません。しかし、できることから、地域の清掃活動や、活動の根幹となる自社の経営力アップを図るため、講習会や研修を開き勉強しています。また50周年の記念事業として、筑紫野市の他団体とタイアップし、JR二日市駅西口に例年よりパワーアップしたイルミネーション事業を企画中です。今後は活動が制限された子どもたちの行事の手助けができればと考えています。

第

46期生徒会は「輪になり飛躍へ」関心・行動・つながり」をスローガンに、各委員会と協力して「全校生徒が筑中大好き100%」を目指し、一人でも多くの生徒がここ筑紫野中学校を好きになるように活動しています。4月から今年度初となる取り組みとして、ミニゲームを通じて生徒同士が会話のきっかけを作る。アイスブレイク、を行い、話しやすい雰囲気づくりに役立てています。学習にはプロデュースノートを使ったPDC Aサイクルを取り入れたり、授業開始の2分前には学習への姿勢を整えておく「筑紫野スタンダード」の実践を目指しています。また、今後7つの委員会が掲げる各目標で、SDGsを世界に発信できる活動ができればいいと思っています。筑紫野市は名前を知らなくても、顔を見れば声を掛け合うなど、地域の方々とのつながりがあると嬉しいです。



筑中、そして筑紫野市で
車輪になり飛躍へ

筑紫野市立筑紫野中学校 第46期生徒会
3年生 谷口 恋陽音さん



昇華
いつまでも上昇志向で
華やかな未来に

筑紫野市令和4年成人式実行委員
新成人代表 巖川 智哉さん

2

0222年1月9日、筑紫野市では1086人が新成人を祝い、私は成人式の実行委員として、昨年の夏から7人のメンバーと共に準備を行ってきました。当初は仕事との両立は大変だと感じていましたが、委員会はみんなが思ったことを言える明るい雰囲気、楽しいものでした。

式典当日はコロナを考慮し、午前と午後の2部に分けて開催しました。周囲の協力を得て制作した各中学校の先生方の動画を披露すると、会場は大いに盛り上がり、友人たちは「働きながら大変だったね」とねぎらってくれました。普段ではなかなかできない経験をしましたし、この経験から、物事を明確に伝えられるようになり、仕事の上でも役立っています。

今、私は普段は市外で生活していますが、帰省すると友だちと温泉へよく行きます。地元で気軽に温泉に行けるのはすごいことだと、改めて思っています。



50周年
おめでとう
筑紫野市大好き!

九州産業大学付属九州産業高等学校 吹奏楽部
3年生 遠藤 由唯さん

総

勢110人の仲間たちと、コンテストやコンクールに向けて毎日練習に励み、マーチングや吹奏楽、みんなが楽しめる手話付きの合唱など、さまざまな形で音楽を楽しんでいます。先輩たちの思いも引き継ぎながら、今年は「千紫万紅」というスローガンを掲げ、地域の方々の温かい応援をいただきつつ、全国大会出場を目指しています。

私は中学生の頃から吹奏楽でトロンボーンを演奏してきましたが、高校生になってメンバーみんなの気持ちにさらさら一緒にしていると感じています。周囲との調和が大切なので、副部長として以前よりも周りを気遣えるようになり、私から積極的に仲間と声をかけて、励まし合っています。

生まれも育ちも筑紫野市で大好きな地元です。バブルプラザのように集中できる自習室があることは、学生にとってありがたいことです。

筑

筑紫野市には8つの分団があり、295人が所属し、コロナ禍で各分団ができる限りの活動を行っています。緊急時に備えて、毎月第1日曜日に、消防ポンプ車や小型動力ポンプなど機材の整備点検は欠かせませんし、私が所属する山家分団では、第2、第4金曜日に夜間防犯パトロールを行ったり、大雨の際に危険個所の予点検を行うなど、地域の安全安心を守っています。また、梅雨前には土のうを準備するなど、近年の豪雨に備えるようにしています。今後は、激変する社会環境に対応しつつ、将来を担う人材の育成が必要だと考えています。

団員になって19年、お世話になった地域に恩返しをしたいの思いから、消防団に入りました。さまざまな職業の方々を知り合えて、人生がより豊かになったと感じています。趣味の登山で宝満山など近隣の山々を歩きながら、地域の安全を願っています。



未来を担う
団員募集中!

筑紫野市消防団
山家分団 平山 哲也さん

市民12人のメッセージ



筑紫野市剣道連盟
前田 美香さん

筑

筑紫野市は県内でも有数の剣道が盛んな地域で、筑紫野市剣道連盟には8つの剣友会があり、約1800人の少年少女会員と約1600人の一般会員が所属しています。熱心な指導者も多く、青少年の健全な育成のため、主に小中学生を対象に週3日の稽古日を設けて、技術の向上や昇段を目標に活動しています。成人の稽古会も充実しています。市主催の大会や二日市八幡宮で行う奉納剣道大会も行われています。ただ、少子化などから剣道人口は減少傾向にあり、子どもたちに剣道に関心を持ってもらうことが課題です。

実は剣道は若者男女関係なく剣を交え、汗を流せることも魅力です。より多くの方々に、剣道を知ってほしいと思います。自然が豊かで程よく都会も近い筑紫野市。剣道を学び一度果立った子どもたちが、いつでも帰って来られる場所であってほしいですね。

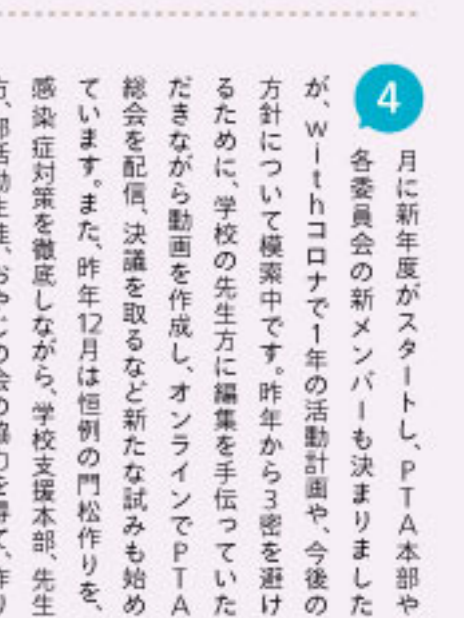


筑紫野市農業女性グループ協議会
榎木 真貴子さん

毎

年1月「食と農のつどい」では、公募したみなさんと一緒に、がめ煮など郷土の伝承料理や、シヨウガやネギなど地元の食材を生かした料理を作った。市長や関係者の方々に招いていただき、コロナ禍でイベントが中止となる中、何かできることをと、かつて行われていた催事で人気があった豚汁を各家庭で作ってもらうことにし、私たちの野菜や農産物をセットにして公募してくれた35軒にお届けしました。大好評で、お礼やおいしかったという感想を多数いただきました。やってよかったと感じています。

私たち女性グループは筑紫野市の農業を支え、盛り上げていくのが役目だと考え、他所の農業地域を訪れて話を聞いたり、講演会を行うなどして、日々研究を重ねています。地元にも新鮮でおいしいものがあることをもっと知って、たくさん食べていただきたいです。



筑紫野市立筑紫野中学校PTA本部
松永 紀章さん

4

月に新年度がスタートし、PTA本部や各委員会の新メンバーも決まりました。が、Withコロナで1年の活動計画や、今後の方針について模索中です。昨年からは3密を避けるために、学校の先生方に編集を手伝っていただきながら動画を作成し、オンラインでPTA総会を配信、決議を取るなど新たな試みも始めています。また、昨年12月は恒例の門松作りを、感染症対策を徹底しながら、学校支援本部、先生方、部活動生徒、おやじの会の協力を得て、作り上げました。手作りの立派な門松は、1年間の大切な締めめの行事です。



筑紫野市「障害」児・者問題を考える会
三角 美紀さん

1

979年に「障害」児の保護者と教員で発足した会で、身近な相談をはじめ、「障害」児・者の就園・就学・就労などの進路相談、教育委員会や学校との話し合いや情報交換なども密に行っています。会で長年開催されてきたプール&バーベキューは、コロナの影響で中止となり、新たなイベントを模索中です。まずはできることとして、造形教室、なかなか美容室に行けない人のためにヘアカットやハンドメイド教室、ボウリング教室など、あったらいいなという要望から生まれた余暇活動を行っています。一人や家族で悩みを抱えていますか？茶話会なども開催しているので、当会をもっと活用し、少しでも楽しんでいただけたらと思っています。「障害」児・者に対する差別や偏見のない、生きる喜びが感じられる、本当の意味での「インクルーシブ」な世の中になることを願っています。



筑紫野市健康づくり運動サポーターの会
大山 八智代さん

私

たち健康づくり運動サポーターは、地域に「笑顔と元気」の孢子(幸仕)を届けるキノコをトレードマークとした赤いTシャツを着て活動しています。現在106名の会員が、コミュニティセンターや公民館で健康体操やストレッチ、筋トレを中心とした健康教室を行っています。教室の中では、健康づくりを目的に新型コロナウイルスの感染予防に努めながら、脳トレやレクリエーションなど、参加者にも喜んでもらえる内容になるように工夫し、楽しみながら活動を行っています。

地区の活動なので、みなさんと顔見知りとなり、安心感が生まれ、会話することも楽しさにつながっています。筑紫野市は高齢者へのフォローが盛んな地域だと感じています。元気な80代の先輩方をお手本に当たり前の活動ができることに感謝しつつ、活動をつづけていきます。

筑

筑紫野市には自然があり、総合公園の船などの遊具で遊ぶのが好きでした。兄の影響もあり、小学1年生でサッカーを始め、筑紫野FCに所属し、通っていた山口小学校や阿志岐小学校で練習をしていました。小学6年生のときに出場したフジパンカップで、県大会ベスト8というチーム最高の成績を残せたのは、いい思い出です。全日大会でコーチの目に留まり、サガン鳥栖U-15に誘われました。ずっと一緒にやってきた仲間と別れるのは残念でしたが、その思いを振り切りプロへの道を目指し、Jクラブの育成組織へ進むことにしました。現在は、サガン鳥栖U-18に所属しています。スタメンを勝ち取るため、毎日、緊張感のある練習を行っています。プレー中に受けた注意を修正したり、映像を見て学んだり、分からないことはコーチや監督に聞いたりして、プロになるためには何が必要かを考えながら進んでいます。



サガン鳥栖U-18
鬼木 健太さん



電岩自然の家
豊かな自然環境の中、キャンプや敷地内を流れる宝満川での川遊び、自然観察等を行うことができる野外活動施設。プレイドーム内には大型のクライミングウォールがありボルダリングも楽しめる



宝満山
古くから九州を代表する霊山として信仰の場となっており、わが国を代表する山岳信仰の遺跡として国指定史跡に認定されている



筑紫野市総合公園
帆船を模した大型の遊具があり、広大な空の下でのびのびと遊ぶことができる



上原田公園
大型複合遊具や健康遊具、多目的グラウンドを備える人気の公園



天拝山山頂からの眺め

筑紫野市の今

古くからの伝統の祭や文化が受け継がれている一方、新しいイベントや名所・名物もたくさんあり、市民生活を潤しています。

自然

筑紫野市は豊かな自然と、都市の利便性を兼ね備え、自然と街との共生都市として発展してきました。古くから交通の要衝として栄え、鉄道、高速道路、主要国道等を有する高い交通利便性に加え、豊かな自然や歴史・文化を感じることが出来る公園や文化施設などの魅力的な環境を備えています。



天拝山
菅原道真公が山頂で無実を訴え続けたとされる天拝山は、登山道が整備されており多くの登山客でにぎわう



天拝山歴史自然公園
つつじ、あじさい、しゃくなげなど四季折々の花々が楽しめる

食

九州の大穀倉・稲作地帯である筑紫野や、宝満川などの水資源に恵まれた筑紫野市では、古くから豊かな食文化が育まれてきました。中でも鶏料理の多様さはこの地域の郷土料理の特徴で、「がめ煮」や「かしわ飯」などのほか、山家地区には鳥肉ともち米を使った「白おこわ」が江戸時代から伝わっています。福岡県産ブランド地鶏「はかた地どり」は昭和62（1987）年、筑紫野市にある県農業総合試験場（現・農林業総合試験場）で開発されました。市内では農作物生産も盛んで、コメをはじめアスパラガスやブロッコリー、シヨウガなどが作られています。



江戸時代に宿場町として栄えた山家の名物「白おこわ」。蒸したもち米に鶏肉などをのせた筑紫野市に伝わる郷土料理



歴史

筑紫野市は、古くから交通の要衝としてさまざまな人やモノの交流があり、江戸時代には3つの街道と3つの宿場がありました。
市内には五郎山古墳、宝満山などの国史跡のほか、武蔵寺の長者の藤など数多くの文化財があり、本市の歴史を今に伝えています。



五郎山古墳宝満山壁面(緑色)



五郎山古墳(国史跡)
装飾壁面のある径約3.2mの円墳。石室内には赤・黒・緑で多彩な文様が描かれている。五郎山古墳館では実物大の可動式石室模型などで学習できる

筑紫野市は、長崎街道・日田街道・薩摩街道の3つの街道が交わり、その街道に沿って山家宿・原田宿・二日市宿の3つの宿場がありました。山家宿まつり・原田宿時代行列など、地域のみなさんが当時の様子を今に伝えています。



山家宿
長崎街道の宿場の一つで、宿場の入口にあたる橋口や、郡屋土蔵などがこざれている



山家宿まつり



山家岩戸神楽(市無形民俗文化財)
山家宝満宮で毎年10月17日に奉納される神楽。寛永9(1632)年にはすでに奉納された記録があり、今も山家岩戸神楽保存会によって継承されている



山家宿の恵比須石像(市有形文化財)
公家のような出で立ちの恵比須。背面には、慶長16(1611)年に横山丹波守によって山家宿が開かれたことが刻まれている



はらふと餅屋の図(『田嶋外伝浜千鳥』第二巻)
原田宿には名物の「はらふと餅」が売られていたとされる。伯東寺(原田)には餅をついたとされる石臼が残されている



原田駅家之真景(『田嶋外伝浜千鳥』第二巻)
幕末の原田宿の様子が描かれている。福岡藩の南端で関番所が置かれていた



筑紫神社
平安時代の「延喜式」神名帳などにも記載される古い神社である。毎年3月15日には古凶を占う卯占祭が行われる



卯占祭(市無形民俗文化財)



原田宿時代行列

二日市温泉は、奈良時代にまとめられた「万葉集」の中で、「次田温泉(すいたのゆ)」として登場します。古くは「武蔵温泉」、「薬師温泉」などとも呼ばれ、昭和25(1950)年には、「二日市温泉」と命名されました。「武蔵寺縁起」によれば、同寺の創建者とされる藤原虎麿の娘瑠璃子が流行り病にかかった折、薬師如来のお告げにより次田のいで湯に浸かると、たちまち病が治ったといわれています。「二日市温泉」の泉質は放射能泉で、切り傷、やけど、皮膚病、痛風など、万病に効く、といわれる珍しい温泉です。

また、大伴旅人や山上憶良に代表される万葉歌人をはじめ、平安時代の学者菅原道真、明治時代の文豪夏目漱石らが、この地で詠んだ多くの歌碑・句碑が点在しています。



武蔵寺
九州最古の寺といわれる。同寺に伝わる武蔵寺縁起には、創建者といわれる藤原虎麿にまつわる伝説が記されている



【武蔵寺所有】
紙本着色武蔵寺縁起(第三幅)



二日市温泉街(湯町)



長者の藤(市天然記念物)
武蔵寺境内にある樹齢700年以上とされる藤。藤原虎麿が「堂塔の盛衰は、この藤の栄枯にあらん」と誓って植えたといわれる

イベント

筑紫野市では、様々な祭やイベントが催され、季節の訪れとともに人々の笑顔や活気、にぎわいの風景をもたらします。

武蔵寺の境内にある長者の藤の間花に合わせて行われる「二日市温泉藤まつり」は多くの人でにぎわいます。

また、毎年中秋の名月の時期に開催している「二日市温泉と天拝山観月会」は、大正13年から続く歴史ある祭で、永く市民に親しまれています。



宝満つばきマラソン大会(5月)



天拝山ロードレース大会(11月)



二日市温泉藤まつり(4月)



二日市温泉と天拝山観月会(9-10月)



市民水泳大会(7月)

スポーツイベントも盛んな筑紫野市。「宝満つばきマラソン大会」では、42.195kmの距離を420人のパトントリーで走るなど、ユニークな種目があり、多くの子どもたちが参加します。10月には、各小学校区ごとに「市民体育祭」が開催され、大いに盛り上がります。

筑紫野市総合公園で開催される「天拝山ロードレース大会」は、高低差の少ない天拝湖周回コースで、福岡県内外から多くのランナーが参加しその健脚を競い合います。



市民体育祭(10月)



筑紫野市駅伝大会(1月)



宝満川カヌー大会(9月)



パールプラザフェスタ(10月)



オータムコンサートMnおかだ(10月)



スポレクフェスタ(10-12月)



ドラゴンロックフェスタ(11月)



ちくしの人形まつり(11-12月)



二日市イルミネーション
「パールナイト」(12月)

福祉・教育・医療

人口10万人を超す筑紫野市には、幅広い世代の市民が暮らしています。乳幼児から高齢者まで、すべての市民が充実した生活を送れるよう、市内には保健・福祉サービスを担う拠点が設けられています。筑紫野市総合保健福祉センター「カミーリヤ」では、市の健康推進課のほか、社会福祉協議会などが活動しており、館内には、健康づくりをサポートする「トレーニング健康測定室」や、高齢者の集いの場「老人福祉センター」などがあり、様々な世代の人に利用されています。

また、市役所に隣接した「子育て支援センター」では、地域の子育て支援の拠点として、子育てサロンを地域で開催するなど、安心して子育てができる環境づくりをサポートしています。また、「パールプラザ」には、「生涯学習センター」、「市民図書館」、「歴史博物館(ふるさと館ちくしの)」が併設されており、市民のみなさんが生きがいを持って生活することができるよう、学習の場や機会、情報交換、交流の場などの生涯学習の拠点として気軽に利用することができます。

さらに、市内には地域医療の中核を担う地域医療支援病院として県の指定を受けた「福岡大学筑紫病院」や「済生会二日市病院」、老人性認知症センターとして県の指定を受けた「牧病院」があるなど、医療機関も充実しています。



筑紫野市総合保健福祉センター「カミーリヤ」



生涯学習センター

生涯学習センター
市民のさまざまな学習ニーズに対応する生涯学習活動拠点施設。学習情報の収集や人とつながる1階「つながりスペース」、作業や調理室、音楽室のある2階「表現スペース」、大小の学習室がそろった3階「まなびスペース」からなる

筑紫野市にほんご教室「ワイワイ日本語ちくしの」
外国人のみなさんが、日本で生活するのに必要な日常会話や日本文化を、地域のボランティアスタッフが



トレーニング健康測定室
健康運動指導士が常駐し、メタボ改善や体力の向上など、目的に合わせた個別運動支援を行う



親子クッキング教室



市民図書館



移動図書館つくしんぼ号がリニューアル。車いすに乗ったまま車内の本棚を見ることができる

常設展示室では「交易と旅」をテーマに、市内で発掘された考古資料など、原始から近代に至る通史展示をしている。企画展示も人気



歴史博物館



歩行訓練プール
水深1メートル、水温30度～34度、歩行訓練を目的とした歩行訓練プール。関節の痛みの軽減や緩和に効果がある



健康づくりサポーター
食事・運動を通じて地域の健康づくり・介護予防を推進するボランティア活動を行っている

二日市東コミュニティ運営協議会



子育てサロン

地域の特徴
 二日市東コミュニティは、二日市東小学校と2つの中学校を含む13行政区、約1万戸、およそ2万人が暮らす地域です。筑紫野市の中央部に位置し、「JR「天拝山駅」や西鉄「朝倉街道駅」周辺は、商店街や大型商業施設や公共施設、医療機関などが充実。国道や駅にも近く、交通の便が良いので、暮らしやすい地域で、落ち着いた雰囲気、住宅街が広がります。住民が丸となって励む市民体育祭やコミュニティ文化祭、3月開催のウォーキングなどは人気で、にぎわいます。住民が安心して住める「みんな笑顔でつながる安心の町」を目標に町づくりを進めています。

市民が気軽に参加できる活動

- 子育てサロン ● 市民体育祭(10月)
- コミュニティ文化祭(11月)
- クリスマスコンサート(12月)
- 地域ウォーキング(3月)

普段の活動内容

2014(平成26)年12月に運営協議会を設立し、交流部会、防犯・防災部会、子ども育成部会、健康・福祉部会の4つの部会と13行政区(自治会・公民館)とが連携して、年4回のコミュニティだよりの発行、まちづくりの主催事業の企画・運営など活動しています。



会長 武元 吉晴 さん

会長コメント
 2018(平成30)年度に、福祉、防災、教育を3本柱に、今後10年のまちづくり計画を策定しました。特に今年度は福祉の視点から「地域包括ケアシステム」を構築し、まずは今できることから、月一度発行される市の広報紙配布の機会を利用して、高齢者の見守りに力を入れることとしました。今後もできることから、継続できることを行い、まちづくり計画のスローガン「みんな笑顔でつながる安心の町」を目指しています。

地域コミュニティ紹介



地域コミュニティとは?

「コミュニティ」は、地域での生活に関わる自治会や隣組、また、高齢者の見守り、子育て、防犯といった各テーマによる集団などが連携し、自ら地域課題を解決しようとする地域社会のことです。
 少子高齢化の進行や都市化の進展などで私たちの暮らしのあり方が変化する中、安全安心のまちづくりや地域の支え合いの基盤、子育て支援の場など、さまざまな地域課題の解決に向けて地域コミュニティの役

割が期待されています。

筑紫野市では、小学校を基本に7つのコミュニティ区域を設定し、地域の中核となるコミュニティ運営協議会が設立されています。各種団体が活動の枠を超えて、それぞれの特性を活かしつつ、足りないところを補い合いながら協働し、地域の課題を地域自らで解決する「地域コミュニティによるまちづくり」に向けた取り組みが進められています。



7つの地域コミュニティがあります



地域の特徴

二日市コミュニティ運営協議会は二日市地区21の自治会で構成される活動体です。
 市の北西部に位置し、人口およそ3万8000人、世帯数およそ1万4500戸、小学校3校と中学校2校があり、市内7つのコミュニティでは最も規模が大きいコミュニティです。

中心部の二日市は「JRと西鉄の二つの二日市駅」や九州自動車道インターもある交通の要衝で、商業施設、医療機関、公共施設も充実していて人の動きも活発です。
 また、日本遺産の構成文化財が6か所あるほか、二日市温泉や天拝山歴史自然公園などの観光資源もあります。



ディスカバー二日市ウォーキング

市民が気軽に参加できる活動

- ウォーキング(日本遺産スタンプラリー)(9月)
- 観月会(10月)
- 二日市コミュニティ文化祭(10月)
- 二日市イルミネーションパブルナイト(11月)

普段の活動内容

21の自治会による月曜～金曜毎日の青パト防犯パトロール、軽トラの無料貸し出し、毎月2のつく日のあいさつ運動、広報委員会による毎月の「ニコニコ瓦版」の情報発信、毎年9月の二日市町軍人墓地忠霊塔の清掃と追悼式などを行っています。



会長 土郎 さん

会長コメント
 これまで長い間悩まされていた高尾川の浸水災害は、河川トンネルの完成により、おかげさまでなくなりました。しかし、高尾川の氾濫があったことや災害がなくなって住み良くなったことも、今後子どもたちへ語り継いでいきたいことの一つとらえています。柔道の創始者・嘉納治五郎先生の精神「自他共栄」「自分だけでなく他の人と助け合いながら良い社会をつくっていく」との教えを大切に、コミュニティのスローガン「愛・笑顔・活力のまち」を実現させたいと思っています。

二日市コミュニティ運営協議会

地域の特徴

市内7つのコミュニティの中で最も行政区数が少ない6行政区で構成。面積は22.88km²と2番目に広く、市の面積の4分の1を占めています。人口は5519人と市の人口の20分の1で、人口密度が低く、高齢化率は市平均を上回る36%と最も進んでいます。山間地域が多く豊かな自然に囲まれている反面、自然災害の多発地域でもあります。特に過疎化が進んでいる地区と、宅地開発など都市化で発展する地区との二極化も進んでいます。昔から住民同士の絆が強い地域です。「自然も豊か、人も豊かに、みんなでつくる笑顔コミュニティ山口」をスローガンに地域づくりを行っています。



グラウンド・ゴルフ大会

市民が気軽に参加できる活動

- エヒメアヤメ見学会(4月頃)
- やまぐちホテル鑑賞会(5月頃)
- グラウンド・ゴルフ大会(6月)
- 市民体育祭(10月) ● 山口コミュニティまつり(11月頃)

普段の活動内容

役員会や運営協議会を毎月開催し、活動内容や進捗状況の確認、情報交換を行っています。6つの部会長会議も同様です。事務局に、局長、事務員が常駐し、部会活動の把握やイベントの受付をはじめとする地域住民への対応を行っています。



会長 義徳 さん

会長コメント
 安全で安心して暮らせる地域づくりを進めてまいりますが、ここ最近のコロナ禍により、さまざまなイベントが中止や規模縮小となり、住民同士の絆が希薄になっているように感じています。50周年記念事業を機に、市民体育祭や歌謡祭などのイベントが再開され、コミュニティの活動に関心を持って行事に参加し、地域の絆を深めていただきたいと思います。また、小学生が育てて収穫した餅米で行う餅つき大会などが復活することを望んでいます。

山口コミュニティ運営協議会

筑紫よかまち協議会



よかまち散策

地域の特徴
筑紫地区11行政区の自治会など各種団体から構成されています。協議会には、青パトで児童の下校見守りを行う「安全安心部会」、河川敷清掃や花植えを担当する「環境部会」、よかまち散策を開催する「振興交流部会」、介護予防などに関する講演や講習会を開催する「健康福祉部会」、子育て支援やお話を子ども向けに聞く「次世代育成部会」、公民館活動を通して地域住民相互の親睦を図る「自治公民館連絡部会」の6つの部会があり、地域内の連携の強化や、地域の人材育成とともに、1つの行政区だけでは取り組むことが難しい地域課題を解決するために活動しています。

市民が気軽に参加できる活動

- よかまちコンサート(8月)
- 筑紫よかまち文化祭(10月)
- 健康セミナーや健康教室などの各種学習会や講演会
- 安西均献詩事業(2月、市民の方に自由詩を募集)

普段の活動内容

コロナ禍でも文化祭は、展示物は期間を延長するなど工夫して開催。現在は、通例事業に加え、50周年を祝って、各種スポーツイベントやかるた大会などを企画中です。部会毎の活動のほか、戸別に「よかまかわら版」を配布し、広報にも力を入れています。



川上 弘道さん

会長コメント
国登録有形文化財・旧九州鉄道城山三連橋梁があり、城山地区ではホテルが見られたりと文化も自然も豊かな地域です。区画整理事業が完成してマンションなども増え、今後は人口増加に期待がかかります。古くからの住民も新しく住む人も共に手を取り合って、「故郷の自然と歴史を継承し、子どもから高齢者までみんなが助け合い、笑顔があふれ活気に満ちた差別のない元気なまち」を目指します。地域の行事に関心を持って、地域の活動にご協力いただければと思っています。

筑紫南コミュニティ運営協議会



ふるさと創生部会事業「楽しい農業体験」

地域の特徴
筑紫南地区7行政区は、6世紀後半頃の装飾古墳「五郎山古墳」をはじめ、古事記にもその名が登場する「筑紫神社」や、江戸時代に長崎街道と宿場町として栄えた原田などの歴史豊かな地区と、町並みの美しい新興住宅街、そして古くから農業を主体としたのどかな田園風景が広がる地区がある、表情豊かな地域です。子どもたちが長崎街道を利用した偉人たちが装った「長崎街道時代行列」など、歴史との関わりをしのぶ行事も行われています。人口が多くなるとともに世代の人口の流出が懸念され、今後は若い世代も住み良い、より魅力あるまちづくりなどの施策にも取り組んでいます。

市民が気軽に参加できる活動

- 筑紫南コミュニティまつり(五郎山灯ろうまつり、ウォークラリー 10月)
- レク式体力チェック測定会(年間)
- 市民体育祭(10月) ●ほうげんぎょう(1月)

普段の活動内容

ふるさと創生部会、安全・安心部会、次世代育成部会、健康・福祉部会、絆・交流部会の5つの部会と広報委員会が活動を行っています。特に各部会が独自に掲げた中長期推進計画に向けて事業の見直し・充実を目指してお互いに交流を図りながら、積極的な活動を行っています。



久光 光博さん

会長コメント
2年ぶりに筑紫南コミュニティまつりを行うにあたり、50周年記念事業として今年から五郎山灯ろうまつりが加わります。皆さんの協力で1,000個を超える灯ろうが、五郎山公園に灯りを点す予定です。地元のまつりとして今後も定着してほしいと願っています。また、九州北部豪雨災害を経験した方の講演を行い、防災への知識や意識を深めていく予定です。これらを通じて、もっともっと地域の絆が深まり、コミュニティの結びつきが強くなることを願っています。

御笠まちづくり協議会



御笠自治会バス

地域の特徴
御笠地区16行政区は、地域の中心を宝満山が源流の宝満川が流れ、宝満山や阿志岐山城跡など2つの国指定史跡に囲まれた、自然と文化など遺構の豊かな地域で、先人たちが守り抜いた豊かな環境を、維持し保全に努めています。超高齢化地域でもあり、高齢者の生活のため、また、小学生の通学のために、「御笠自治会バス」が東・西の2つのルートで、貴重な移動手段となって活躍しています。野菜直売所「みかさの里」は、農業生産者と地域の住民をつなぐ大切な場で、「農産物がおいしい」と、早朝から楽しみに訪れるファンもいるほど。一方、人口増加に伴い住宅団地が開発された地域も混在しています。

市民が気軽に参加できる活動

- みかさの朝市(9月、11月、12月)
- 筑紫野市民体育祭御笠地区大会(10月)
- 御笠地区市民文化祭(11月)
- 市制50周年記念事業「みかさ未来フェスタ2022」(11月)

普段の活動内容

昭和44年に御笠振興会として設立され、4部会2実行委員会に分かれ、御笠まちづくり推進計画に基づいた部会活動を展開しています。今年度は特に、子どもたちに参加してもらいたいと「みかさ未来フェスタ2022」の取り組みに余念がありません。



八尋 謙二さん

会長コメント
地域の住民の方々を主人公に、「住みやすい 住み続けたい 明るい御笠のまちづくり」を目指してまちづくりを行っています。「みかさ未来フェスタ2022」では、住民の参加意識は強く、特に元気な先輩方のパワーは、何物にも代え難くありがたいと実感しています。世代を超えて全住民が集って交流が持てる場となり、持続可能なまちづくりのスタートとなるよう願いつつ、次世代の未来への灯りとなるよう、まずはできることから取り組んで参ります。

山家コミュニティ運営協議会



夏祭り

地域の特徴
市の東部に位置し、森林と農地が多く自然豊かな地域です。国道200号の沿道に集落があり、筑紫野市と筑紫地区を結ぶJR筑豊本線が通っています。また、江戸時代の長崎街道の宿場町「山家宿」に関する史跡が多く残り、山家宝満宮では毎年10月17日に市の無形民俗文化財に指定されている「山家若戸神楽」が奉納されるなど、自然と歴史、文化を体験することができます。神楽は小・中学生への伝承活動も行われています。地域には8行政区、約1100世帯、約25000人が暮らしていますが、山家小学校とコミュニティの区域が同じことから、夏祭りの開催などまとまりのある「ワンチーム」が持ち味です。

市民が気軽に参加できる活動

- 夏祭り(8月)
- 敬老会(9月)
- 市民体育祭(10月)
- 文化祭(11月)

普段の活動内容

スポーツ部、まちづくり部、防犯・防災部、福祉部、子ども育成部の5専門部が部長と部員でそれぞれに活動を行っているほか、夏祭りや春・秋のスポーツフェスタ、いきいきウォークなど季節の行事開催には、一丸となって取り組んでいます。



町田 重敏さん

会長コメント
住宅地の建設が行われ、今後、新しい住民の方々と一緒にコミュニティづくりを目指していきます。そのためには、まず、地元の伝統行事やイベントを通して、世代を超えた交流が持てれば良いと考えています。「山家是一つ、筑紫野ワンチーム」で皆が心をつなげて取り組んでいくつもりです。そのような行事やイベントの際は、ネットワークの軽い消防団の方々に何かとご協力いただき、たいへんお世話になっていて、感謝の念に堪えません。

みそ作り体験

創業明治10年のあびす醤油(株)の協力のもと、5月14日(土)あびす醤油本店で、小学生約40名がみそを仕込みました。子どもたちは、あびす醤油の社長からみその作り方を教わり、楽しそうに作業をしていました。



フォトコンテスト

「未来に伝えたい筑紫野市」をテーマに、筑紫野市内で撮影された写真を募集しました。募集期間は3月から6月にかけての4か月間で、800点を超える作品が集まりました。



健康セミナー

筑紫野市内の病院から講師をお招きし、健康セミナーを7月に生涯学習センター、10月にカミーリヤにて開催しました。各病院の先生に健康な生活を送ること等について話していただき、参加者は熱心に耳を傾けていました。

※7月6日(水)、済生会二日市病院 榎村智平 院長、10月12日(水)、福岡大学筑紫病院 東登志夫 医師、津川園 医師、川下美穂 管理栄養士が講演。

フードドライブ

8月28日(日)、ゆめタウン筑紫野で、筑紫女学園大学の学生の協力のもとフードドライブを実施しました。当日は、45品目472点の食品等が集まり、ふくおか筑紫フードバンクを通じて、子ども食堂や支援を必要とされる方々に配布されました。



二日市温泉絵ワークショップ

7月31日(日)、二日市東コミュニティセンター大研修室で、温泉絵ワークショップを開催しました。銭湯ペンキ絵師の田中みずきさんの指導のもと、17名の小学生が筑紫野市にちなんだ温泉絵を完成させました。温泉絵は二日市温泉御前湯の浴室に飾られています。



筑紫野物産販売会

筑紫野市内商業施設で、6月から9月にかけて筑紫野物産販売会を開催しました。筑紫野市商工会をはじめ市内の事業者の協力のもと、筑紫野市にゆかりのある名品が集まりました。

※6月18日(土)~19日(日)にイオンモール筑紫野、7月23日(土)~24日(日)に筑紫野天祥の郷、8月6日(土)~7日(日)に筑紫野ベレッサ、9月3日(土)~4日(日)にゆめタウン筑紫野。



市制施行50周年開会セレモニー

4月1日(金)に市制施行50周年を迎えました。市役所ふれあい広場で行われた開会セレモニーでは、藤田市長があいさつを述べ、市制施行50周年を記念したくす玉の開披を行いました。

ロゴマーク

「5本の藤の花」は、筑紫野市の前身の二日市町、山口村、筑紫村、御笠村、山家村の5つの地域を表しています。円を描くように伸びていく藤の花は、市民みなさんと手を取り合う「和」と、新しい明日へと歩いていく筑紫野市の「未来」を表現しました。



「これまでも、これからも、このまちと。」

キャッチフレーズ

この50年、市民みなさんの毎日に、寄り添い続けてきました。「これからもずっと、これまでのように市民みなさまと歩んでいきたい」という変わらない想いを表現しました。

筑紫野市は昭和47(1972)年4月に市制を施行し、令和4年4月1日で市制施行50周年を迎えました。50周年開会セレモニーをはじめ、50周年を記念して行われたイベントの一部をご紹介します。

50周年記念事業



「楽園」数本 悉刃さん

準グランプリ



「花見」戸曾 美成さん

筑紫野市市制施行50周年記念 フォトコンテスト

筑紫野市には、豊かな自然、歴史ある祭など多くの魅力的な景観があります。
市制施行50周年を記念して、「未来に伝えたい筑紫野市」をテーマに
みなさんの目線で切り取った作品を募集しました。

グランプリ



「楽しい時間」hobby_actさん

優秀賞



「筑紫野の春」鬼塚 陽子さん



「ちょっと休憩」かおりんさん



「気になる手」a_k_i_photoさん



「ほうけんぎょう」rs.ayphotoさん

天拝の郷賞



「遊ぶ子供」 sigmaさん



「紫陽花ツアー」 UZOUさん



「春爛漫」 tmtmmama00さん



「お昼寝」 @kazu.a_sakuraさん



「冷水トンネル通過」 ansett747さん



「不変の美しき筑紫神社」
ritsuko_yoko11さん



「9月の空」 矢野 国博さん



「きみを想う。」 pocoakiさん



「御笠・夏の朝景」 渡部 彰子さん



「さくらふぶきとかがみの池と天拝山」 あらたさん



「伝統の女みこし」 山本 和弘さん



「長者の藤と星空」 岡 寛文さん



「コロナに負けるな阿志岐子」
田中 昭一郎さん



「神木公孫樹の黄色の絨毯」
やまちゃんさん



「仰ぐ雪の宝満山」 遠山 博行さん

入選

写真で振り返る 筑紫野市の50年

いくつ覚えて、あるいは、知っていますか？ 筑紫野市の誕生から50年を振り返ってみましょう。



▲筑紫東小学校



- 市制施行20周年記念式典実施
- マスコットキャラクター「つくしちゃん」制定
- 市民愛唱歌「筑紫野恋歌」が誕生
- 原田土地区画整理事業完了
- 隈・西小田土地区画整理事業完了



▲市文化会館



▲シンボルマーク

- 龍岩小学校を吉木小学校と統合
- 市民総合体育施設（勤労青少年ホーム、農業者トレーニングセンター、筑紫運動広場）完成
- 市制施行10周年記念式典実施



- 県営山神ダム完成
- 筑紫多目的集会施設完成
- 県立武蔵台高等学校開校（仮校舎）



筑紫野市制を施行

- 歴史民俗資料館完成
- 筑紫小学校本館完成
- 山家運動公園完成
- 筑紫野音頭が誕生
- 老人福祉センター完成
- 超能力ブーム 佐藤栄作 ノーベル平和賞受賞
- 沖縄本土復帰 日中国交正常化



- 市文化会館完成
- ごみ処理施設「宝満環境センター」操業開始
- 五百円硬貨発行



▲市民図書館と初代つくしんぼ号

- シンボルマーク制定
- 移動図書館車「つくしんぼ号」運行
- 第45回国民体育大会「とびうめ国体」バドミントン、クレー射撃、ライフル射撃競技会開催



●市民図書館開館



▲山家コミュニティセンター

- 山口コミュニティセンター開館
- 筑紫野市陸上競技場オープン

- 筑紫東小学校開校
- 山家コミュニティセンター開館

昭和 1972 昭和47年 1973 昭和48年 1974 昭和49年 1975 昭和50年 1976 昭和51年 1977 昭和52年 1978 昭和53年 1979 昭和54年 1980 昭和55年 1981 昭和56年 1982 昭和57年 1983 昭和58年 1984 昭和59年 1985 昭和60年 1986 昭和61年 1987 昭和62年 1988 昭和63年 1989 平成元年 1990 平成2年 1991 平成3年 1992 平成4年 1993 平成5年 1994 平成6年 1995 平成7年 1996 平成8年

- 阪神・淡路大震災
- 米マイクロソフトがWindows95を発売

- サッカーリーグ開幕
- 福岡ドームが完成

- 市の人口7万人突破
- 原田小学校開校



- JR天拝山駅開業



- 国際科学技術博覧会（つくば万博）開催
- 国道200号冷水有料道路冷水トンネル貫通



- 国鉄二日市駅（JR二日市駅）新駅舎完成



- 国道200号「冷水有料道路」「山家バイパス」、国道3号「筑紫野バイパス」開通



- 任天堂がファミリーコンピュータを発売

- 山口小学校本館完成
- 筑紫野中学校開校
- 市の人口5万人突破
- 市の木「椿」、市の花「サルビア」を制定
- 公共下水道工事着手
- 国道3号福岡南バイパス開通



●学校給食共同調理場完成

- スーパーカーブーム
- 巨人の王貞治、世界新記録の756号本塁打

- 九州縦貫自動車道（古賀⇄鳥栖）開通
- 二日市北小学校開校



- 県立筑紫高等学校開校



●広報ちくしの第1号を発刊



●鳥栖筑紫野道路開通
市民のこぼれ、市歌が誕生

- 塔原・杉塚土地区画整理事業完了
- 市の人口8万人突破
- 筑紫野市人権都市宣言



▲8万人目の市民に認定証を贈呈

- ごみ袋指定・有料化、個別収集、粗大ごみ有料シール導入



●筑紫野南中学校開校



▲筑紫よかまち協議会設立総会



筑紫コミュニティセンター開館
市立16小中学校普通教室へ空調設備工事完了
筑紫野市公式SNS開設
山口コミュニティ運営協議会設立
筑紫南コミュニティ運営協議会設立
二日市東コミュニティ運営協議会設立
二日市コミュニティ運営協議会設立
筑紫よかまち協議会設立



市制施行40周年記念式典
二日市小学校新校舎、新体育館完成



西鉄筑紫駅開業



▲天拝小学校



▲生涯学習センター開館



九州自動車道筑紫野IC供用開始
歴史博物館「ふるさと館ちくしの」開館



新庁舎落成式

旧筑紫野市庁舎閉庁式



市内文化財が日本遺産に認定
高尾川地下河川暫定運用開始

ラグビーワールドカップ2019開催

高尾川床上浸水対策特別緊急事業採択
筑紫野太宰府消防本部及び筑紫野消防署新庁舎運用開始



市制施行30周年記念式典
天拝小学校開校
市公式ホームページ開設



総合保健福祉センター「カミーリヤ」開館



山家スポーツ公園オープン
生涯学習センター開館
五郎山古墳館開館

長野冬季オリンピック・パラリンピック開催

主要地方道筑紫野太宰府線全線開通
ごみ処理・熱回収・リサイクル施設「クリーンヒル宝満」操業開始



ごみの新収集方式が開始

後期高齢者区別制度スタート

筑紫野市無料職業紹介所開設

FIFAワールドカップ日本・韓国大会開催

2021 令和3年 2020 令和2年 2019 平成31年 2018 平成30年 2017 平成29年 2016 平成28年 2015 平成27年 2014 平成26年 2013 平成25年 2012 平成24年 2011 平成23年 2010 平成22年 2009 平成21年 2008 平成20年 2007 平成19年 2006 平成18年 2005 平成17年 2004 平成16年 2003 平成15年 2002 平成14年 2001 平成13年 2000 平成12年 1999 平成11年 1998 平成10年 1997 平成9年 平成

東京2020オリンピック・パラリンピック開催

新筑紫野市庁舎開庁



御笠自治会バス運行開始
コミュニティバス「つくし号」運行開始

移動図書館車「つくしんぼ号」リニューアル



▲つくし号

平成29年7月九州北部豪雨

高尾川地下河川築造工事起工
庁舎建設事業起工
天拝公園あじさい園開園



平成橋開通

熊本地震

筑紫野市地域コミュニティ推進条例施行
コミュニティパートナーシップ協定締結



二日市東コミュニティセンター開館



東日本大震災

山家コミュニティ運営協議会設立
二日市中学校新本館完成
「阿志岐山城跡」国史跡指定



御笠まちづくり振興会設立
二日市東小学校新校舎完成
「宝満山」国史跡指定



上原田公園オープン



議員制度スタート
新型インフルエンザが世界的に流行

鳥栖筑紫野道路無料開放

福岡県西方沖地震

国民文化祭「とびうめ国文祭」開催



筑紫野市人口10万人突破



市の人口10万人突破
筑紫野市ウォーキング都市宣言

男女共同参画都市宣言
西鉄二日市駅東口の開設
筑紫南コミュニティセンター開館



原田駅前土地区画整理事業完了
竜岩自然の家オープン



筑紫野市総合公園オープン



JR原田駅新駅舎、駅前広場完成



筑紫野市史発刊
市の人口9万人突破



御笠コミュニティセンター開館
二日市コミュニティセンター開館
筑紫野市西土地区画整理事業開始

■位置と地勢

福岡県の中央部、やや西よりに位置する筑紫野市。東西15.6km、南北14.1kmに広がる市形は、蝶が羽を広げた姿に似ています。西が背振山系、東が三郡山系の一部をそれぞれ形成。平地は市域中央部に広がっています。中央部には平坦地ながらも分水嶺を抱え、御笠川・那珂川水系は北流し博多湾へ、宝満川水系は南流し有明海へそれぞれ注いでいます。

■人口と世帯数 ※2022年8月末時点



106,183人

男:50,764人 女:55,419人



47,369世帯

■人口の推移 (各年の4月1日現在)



筑紫野市の人口は、市制施行から50年で約2.6倍に増加しました。しかし将来は、日本社会全体の傾向として人口減少が懸念され、筑紫野市も例外ではありません。今後も、誰もが「このまちに生まれてよかった、住んでよかった」と感じられる、活力あるまちづくりを目指しています。

■筑紫野市民のこぼ

昭和47年に市制施行を記念して制定。歴史に培われ伝統に支えられながら、生々発展する筑紫野市民は自負を持って次の言葉を定めます。

- 一、緑と太陽のまち、健康で明るいまちをつくりましょう。
- 一、人を愛し、敬い、平和なまちをつくりましょう。
- 一、教育を重んじ、文化の薫り高いまちをつくりましょう。
- 一、勤労を尊び、生産を高めるまちをつくりましょう。
- 一、力を合わせて、幸せな生活を営めるまちをつくりましょう。

■筑紫野市議会

筑紫野市議会は、市民から選出された議員で構成され、市政運営の方針、条例、予算などの市の具体的な政策について審議・議決する機関です。議会は、3月・6月・9月・12月の年4回開催される定例会と、必要に応じて開催される臨時会があります。各議員は、「総務市民」「文教福祉」「建設環境」の3つの常任委員会のいずれかに属し、また、これとは別に必要に応じて特別委員会を設け、専門的な立場からの審査・調査活動を行っています。

■市章



「ちくしの」の「ち」を図案化したもので、上部の突き出た部分は「躍進」を、外周の円は「融和と豊かさ」を表しています。昭和33年に「筑紫野町章」として制定されたものが、昭和47年の市制施行により「筑紫野市章」となったものです。

■市の木



「橘」
古事記や万葉集の歌によく歌われている橘を、万葉の里・筑紫野のシンボルとして選定しました。豊かで艶やかに咲く花は筑紫野の活力を象徴しています。(昭和52年制定)

■市の花



「サルビア」
“強い輝き”という意味を持つサルビア。緑と太陽の街・筑紫野にふさわしい花といえます。象徴的な赤い色は、情熱や生命力を感じさせます。(昭和52年制定)

■マスコットキャラクター



「つくしちゃん」
二日市温泉ゆかりの伝説上の人物「瑠璃子姫」をモデルに、市制20周年を記念して作成したマスコットキャラクター。愛称の「つくしちゃん」は一般公募により名づけました。(平成4年制定)

CHIKUSHINO MAP

筑紫野市には、古代から九州の要所であった名残が、至る所でうかがえます。今も、見る、食べる、遊ぶ、学ぶなど、誰もが楽しめる魅力があふれるまちです。

